

ガラテヤ人への手紙

1

1 使徒となつたパウロ——私が使徒となつたのは、人間から出たことでなく、また人間の手を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によつたのです。

2 および私とともにいるすべての兄弟たちから、ガラテヤの諸教会へ。

3 どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。

4 キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみこころによつたのです。

5 どうか、この神に栄光がとこしえにありますように。

アーメン。

自由の約束

福音の恵みにまつわる

たまわれない。

6

因らせまい

17 これからは、だれも私を煩わさないようにしてください。私は、この身に、イエスの焼き印を帯びているのですから。

18 どうか、私たちの主イエス・キリストの恵みが、兄弟たちよ、あなたがたの靈とともにありますように。アーメン。

- ・奴隸の印
- ・(泡寄とられまづ)
- ・イエスのしめへ

罪・恵みから
たまえ
(自由)

・恵みから
たまえ
(生まね)

割れ中の割礼、肉の中の肉。 迫害していた(肉)のハロウ [taiheigakka]

福音を宣伝 一かき手しき者。

6 私は、キリストの恵みをもつてあなたがたを召してくださった。その方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移つて行くのに驚いています。

7 ほかの福音といつても、もう一つ別に福音があるのです。ありません。あなたがたをかき乱す者たちがいるで、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。

8 しかし、私たちであらうと、天の御使いであらうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。

9 私たちが前に言つたように、今もう一度私は言います。もしかが、あなたがたの受けた福音に反するのことを、あなたがたに宣べ伝えているなら、その者はのろわれるべきです。

10 いま私は人に取り入ろうとしているのでしょうか。いや。神に、でしよう。あるいはまた、人の歓心を買おうと努めているのでしょうか。もし私がいまなお人の歓心を買おうとするようなら、私はキリストのしもべとは言えません。

11 兄弟たちよ。私はあなたがたに知らせましょう。私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。

12 私はそれを人間からは受けなかつたし、また教えられもしませんでした。ただイエス・キリストの啓示によつて受けたのです。

13 以前ユダヤ教徒であったころの私の行動は、あなたがたがすでに聞いているところです。私は激しく神の教会を迫害し、これを滅ぼそうとしました。

14 また私は、自分と同族で同年輩の多くの者たちに比べるかにユダヤ教に進んでおり、先祖からの伝承に人一倍熱心でした。

15 けれども、生まれたときから私を選び分け、恵みを私のおうちに啓示することをよしとされたとき、私はすぐ人に相談せず、

16 異邦人の間に御子を宣べ伝えさせるために、御子をもつて召してくださつた方が、

17 先輩の使徒たちに会つたためにエルサレムにも上らず、アラビヤに出て行き、またダマスコに戻りました。

18 それから三年後に、私はケペをたずねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間滞在しました。

19 しかし、主の兄弟ヤコブは別として、ほかの使徒にはだれにも会いませんでした。

20 私があなたがたに書いていることは、神の御前で申しますが、偽りはありません。

21 それから、私はシリヤおよびキリキヤの地方に行きました。

22 しかし、キリストにあるユダヤの諸教会には顔を知られていましたでした。

23 けれども、「以前私たちを迫害した者が、そのとき滅ぼそうとした信仰を今は宣べ伝えている」と聞いてだけはいたので、

24 彼らは私のことで神をあがめていました。

1 それから十四年たつて、私は、バルナバといつしょに、テトスも連れ

1 それから十四年たつて、私は、バルナバといつしょに、テトスも連れ再びエルサレムに上りました。

2 それは啓示によって上つたのです。そして、異邦人の間で私の宣べている福音を、人々の前に示し、おもだつた人々には個人的にそうしました。それは、私が力を尽くしていま走っていること、またすでに走つたことが、むだにならないためでした。

3 しかし、私といつしょにいたテトスでさえ、ギリシヤ人であつたのに、割礼を強いてられませんでした。

4 実は、忍び込んだにせ兄弟たちがいたので、強いいられの恐れがあつたのです。彼らは私たちを奴隸に引き落とそうとして、キリスト・イエスにあって私たちの持つ自由をうがうらめたに忍び込んでいたのです。

5 私たちは彼らに一時も譲歩しませんでした。それは福音の真理があなたがたの間で常に保たれるためです。

6 そして、おもだつた者と見られた人たちからは、彼らがどれほどの人たちであるにしても、私には問題はありません。神は人を分け隔てなさいません。

7 そのおもだつた人たちは、私に対して、何もつけ加えることをしませんでした。

8 ペテロにみわざをなして、割礼を受けた者への福音をゆだねられているように、私が割礼を受けない者への福音をゆだねられていることを理解してくれました。

9 そして、私に与えられたこの恵みを認め、柱として重んじられているヤコブとケペとヨハネが、私とペルナバに交わりのしるしとして右手を差し伸べました。それは、私たちが異邦人のところへ行き、彼らが割礼を受けた人々のところへ行くためです。

10 ただ私たちが貧しい人たちをいつも顧みるようにしたことでしたが、そのことなら私も大いに努めて来たところです。

11 ところが、ケペがアンテオケに来たとき、彼に非難すべきことがあつたので、私は面と向かつて抗議しました。

12 なぜなら、彼は、ある人々がヤコブのところから来る前は異邦人といつしょに食事をしていたのに、その人々が来ると、割礼派の人々を恐れて、だんだんと異邦人から身を引き、離れて行つたからです。

13 そして、ほかのユダヤ人たちも、彼といつしょに本心を偽つた行動をとり、バルナバまでもその偽りの行動に引き込まれてしましました。

14 しかし、彼らが福音の真理についてまつすぐに歩んでいないのを見て、私はみな面前でケペにこう言いました。「あなたは、自分がユダヤ人でありながらユダヤ人のように生活せず、異邦人のように生活しないでいたのに、どうして異邦人に対して、ユダヤ人の生活を強いるのですか?」

1580

割禮

1580

1580 dokeo

1391 dokeo
巣生

15 私たちは、生まれながらのユダヤ人であつて、異い邦人のような罪人ではありません。

16 しかし、人は律法の行ないによつては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によつて義と認められる、ということを知つたからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行ないによつてではなく、キリストを信じる信仰によつて義と認められるためです。なぜなら、律法の行ないによつて義と認められる者は、ひとりもいないからです。

17 しかし、もし私たちが、キリストにあつて義と認められることを求めるながら、私たち自身も罪人であることがわかるのなら、キリストは罪の助成者なのでしょうか。そんなことは絶対にありえないことです。

18 けれども、もし私が前に打ちこわしたものをもう一度建てるなら、私は自分自身を違反者にしてしまうのです。

19 しかし私は、神に生きるために、律法によつて律法に死にました。

20 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちには生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになつた神の御子を信じる信仰によつているのです。

21 私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によつて得られるしたら、それこそキリストの死は無意味です。

3

知る 4:8-

1 ああ恩かなガラテヤ人。十字架に

つけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に、あんなにはっきり示されたのに、だれがあながたを迷わせたのですか。

2 ただこれだけをあなたがたから聞いておきたい。あなたがたが御靈を受けたのは、律法を行なつたからですか。それとも信仰をもつて聞いたからですか。

3 あなたがたはどこまで道理がわからないのですか。御靈で始まつたあなたがたが、いま肉によつて完成されるというのですか。

4 あなたがたがあれほどのことを経験したのは、むだつたのでしょうか。万が一にもそんなことはないでしようが。

律法の3点の下

5 とすれば、あなたがたに御靈を与えて、あなたがたの間で奇蹟を行なわれた方は、あなたがたが律法を行なつたから、そうなさつたのですか。それともあなたがたが信仰をもつて聞いたからですか。

6 アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。それと同じことです。

7 ですから、信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい。

8 聖書は、神が異邦人をその信仰によつて義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、「あなたによつてすべての国民が祝福される」と前もつて福音を告げたのです。

9 そういうわけで、信仰による人々が、信仰の人アブラハムとともに、祝福を受けるのです。

10 というのは、律法の行ないによる人々はすべて、いろいろのものにあるからです。(こう書いてあります。)「律法の書に書いてある、すべてのことを堅く守つて実行しなければ、だれでもみな、のろわれる。」

11 ところが、律法によつて神の前に義と認められる者が、だれもいないということは明らかです。「義人は信仰によつて生きる。」のだからです。

12 しかし律法は、「信仰による。」ではありません。律法を行なう者はこの律法によつて生きる。」のです。

13 キリストは、私たちのためにのろわれたものとなつて、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、「木にかけられる者はすべてのろわれたものである。」と書いてあるからです。

14 このことは、アブラハムへの祝福が、キリスト・イエスによつて異邦人に及ぶためであり、その結果、私たちが信仰によつて約束の御靈を受けるためなのです。

出エジプト

(第1章¹章²章³章⁴章⁵章⁶章⁷章⁸章⁹章¹⁰章¹¹章¹²章¹³章¹⁴章¹⁵章¹⁶章¹⁷章¹⁸章¹⁹章²⁰章²¹章²²章²³章²⁴章²⁵章²⁶章²⁷章²⁸章²⁹章³⁰章³¹章³²章³³章³⁴章³⁵章³⁶章³⁷章³⁸章³⁹章⁴⁰章⁴¹章⁴²章⁴³章⁴⁴章⁴⁵章⁴⁶章⁴⁷章⁴⁸章⁴⁹章⁵⁰章⁵¹章⁵²章⁵³章⁵⁴章⁵⁵章⁵⁶章⁵⁷章⁵⁸章⁵⁹章⁶⁰章⁶¹章⁶²章⁶³章⁶⁴章⁶⁵章⁶⁶章⁶⁷章⁶⁸章⁶⁹章⁷⁰章⁷¹章⁷²章⁷³章⁷⁴章⁷⁵章⁷⁶章⁷⁷章⁷⁸章⁷⁹章⁸⁰章⁸¹章⁸²章⁸³章⁸⁴章⁸⁵章⁸⁶章⁸⁷章⁸⁸章⁸⁹章⁹⁰章⁹¹章⁹²章⁹³章⁹⁴章⁹⁵章⁹⁶章⁹⁷章⁹⁸章⁹⁹章¹⁰⁰章¹⁰¹章¹⁰²章¹⁰³章¹⁰⁴章¹⁰⁵章¹⁰⁶章¹⁰⁷章¹⁰⁸章¹⁰⁹章¹¹⁰章¹¹¹章¹¹²章¹¹³章¹¹⁴章¹¹⁵章¹¹⁶章¹¹⁷章¹¹⁸章¹¹⁹章¹²⁰章¹²¹章¹²²章¹²³章¹²⁴章¹²⁵章¹²⁶章¹²⁷章¹²⁸章¹²⁹章¹³⁰章¹³¹章¹³²章¹³³章¹³⁴章¹³⁵章¹³⁶章¹³⁷章¹³⁸章¹³⁹章¹⁴⁰章¹⁴¹章¹⁴²章¹⁴³章¹⁴⁴章¹⁴⁵章¹⁴⁶章¹⁴⁷章¹⁴⁸章¹⁴⁹章¹⁵⁰章¹⁵¹章¹⁵²章¹⁵³章¹⁵⁴章¹⁵⁵章¹⁵⁶章¹⁵⁷章¹⁵⁸章¹⁵⁹章¹⁶⁰章¹⁶¹章¹⁶²章¹⁶³章¹⁶⁴章¹⁶⁵章¹⁶⁶章¹⁶⁷章¹⁶⁸章¹⁶⁹章¹⁷⁰章¹⁷¹章¹⁷²章¹⁷³章¹⁷⁴章¹⁷⁵章¹⁷⁶章¹⁷⁷章¹⁷⁸章¹⁷⁹章¹⁸⁰章¹⁸¹章¹⁸²章¹⁸³章¹⁸⁴章¹⁸⁵章¹⁸⁶章¹⁸⁷章¹⁸⁸章¹⁸⁹章¹⁹⁰章¹⁹¹章¹⁹²章¹⁹³章¹⁹⁴章¹⁹⁵章¹⁹⁶章¹⁹⁷章¹⁹⁸章¹⁹⁹章²⁰⁰章²⁰¹章²⁰²章²⁰³章²⁰⁴章²⁰⁵章²⁰⁶章²⁰⁷章²⁰⁸章²⁰⁹章²¹⁰章²¹¹章²¹²章²¹³章²¹⁴章²¹⁵章²¹⁶章²¹⁷章²¹⁸章²¹⁹章²²⁰章²²¹章²²²章²²³章²²⁴章²²⁵章²²⁶章²²⁷章²²⁸章²²⁹章²³⁰章²³¹章²³²章²³³章²³⁴章²³⁵章²³⁶章²³⁷章²³⁸章²³⁹章²⁴⁰章²⁴¹章²⁴²章²⁴³章²⁴⁴章²⁴⁵章²⁴⁶章²⁴⁷章²⁴⁸章²⁴⁹章²⁵⁰章²⁵¹章²⁵²章²⁵³章²⁵⁴章²⁵⁵章²⁵⁶章²⁵⁷章²⁵⁸章²⁵⁹章²⁶⁰章²⁶¹章²⁶²章²⁶³章²⁶⁴章²⁶⁵章²⁶⁶章²⁶⁷章²⁶⁸章²⁶⁹章²⁷⁰章²⁷¹章²⁷²章²⁷³章²⁷⁴章²⁷⁵章²⁷⁶章²⁷⁷章²⁷⁸章²⁷⁹章²⁸⁰章²⁸¹章²⁸²章²⁸³章²⁸⁴章²⁸⁵章²⁸⁶章²⁸⁷章²⁸⁸章²⁸⁹章²⁹⁰章²⁹¹章²⁹²章²⁹³章²⁹⁴章²⁹⁵章²⁹⁶章²⁹⁷章²⁹⁸章²⁹⁹章³⁰⁰章³⁰¹章³⁰²章³⁰³章³⁰⁴章³⁰⁵章³⁰⁶章³⁰⁷章³⁰⁸章³⁰⁹章³¹⁰章³¹¹章³¹²章³¹³章³¹⁴章³¹⁵章³¹⁶章³¹⁷章³¹⁸章³¹⁹章³²⁰章³²¹章³²²章³²³章³²⁴章³²⁵章³²⁶章³²⁷章³²⁸章³²⁹章³³⁰章³³¹章³³²章³³³章³³⁴章³³⁵章³³⁶章³³⁷章³³⁸章³³⁹章³⁴⁰章³⁴¹章³⁴²章³⁴³章³⁴⁴章³⁴⁵章³⁴⁶章³⁴⁷章³⁴⁸章³⁴⁹章³⁵⁰章³⁵¹章³⁵²章³⁵³章³⁵⁴章³⁵⁵章³⁵⁶章³⁵⁷章³⁵⁸章³⁵⁹章³⁶⁰章³⁶¹章³⁶²章³⁶³章³⁶⁴章³⁶⁵章³⁶⁶章³⁶⁷章³⁶⁸章³⁶⁹章³⁷⁰章³⁷¹章³⁷²章³⁷³章³⁷⁴章³⁷⁵章³⁷⁶章³⁷⁷章³⁷⁸章³⁷⁹章³⁸⁰章³⁸¹章³⁸²章³⁸³章³⁸⁴章³⁸⁵章³⁸⁶章³⁸⁷章³⁸⁸章³⁸⁹章³⁹⁰章³⁹¹章³⁹²章³⁹³章³⁹⁴章³⁹⁵章³⁹⁶章³⁹⁷章³⁹⁸章³⁹⁹章⁴⁰⁰章⁴⁰¹章⁴⁰²章⁴⁰³章⁴⁰⁴章⁴⁰⁵章⁴⁰⁶章⁴⁰⁷章⁴⁰⁸章⁴⁰⁹章⁴¹⁰章⁴¹¹章⁴¹²章⁴¹³章⁴¹⁴章⁴¹⁵章⁴¹⁶章⁴¹⁷章⁴¹⁸章⁴¹⁹章⁴²⁰章⁴²¹章⁴²²章⁴²³章⁴²⁴章⁴²⁵章⁴²⁶章⁴²⁷章⁴²⁸章⁴²⁹章⁴³⁰章⁴³¹章⁴³²章⁴³³章⁴³⁴章⁴³⁵章⁴³⁶章⁴³⁷章⁴³⁸章⁴³⁹章⁴⁴⁰章⁴⁴¹章⁴⁴²章⁴⁴³章⁴⁴⁴章⁴⁴⁵章⁴⁴⁶章⁴⁴⁷章⁴⁴⁸章⁴⁴⁹章⁴⁵⁰章⁴⁵¹章⁴⁵²章⁴⁵³章⁴⁵⁴章⁴⁵⁵章⁴⁵⁶章⁴⁵⁷章⁴⁵⁸章⁴⁵⁹章⁴⁶⁰章⁴⁶¹章⁴⁶²章⁴⁶³章⁴⁶⁴章⁴⁶⁵章⁴⁶⁶章⁴⁶⁷章⁴⁶⁸章⁴⁶⁹章⁴⁷⁰章⁴⁷¹章⁴⁷²章⁴⁷³章⁴⁷⁴章⁴⁷⁵章⁴⁷⁶章⁴⁷⁷章⁴⁷⁸章⁴⁷⁹章⁴⁸⁰章⁴⁸¹章⁴⁸²章⁴⁸³章⁴⁸⁴章⁴⁸⁵章⁴⁸⁶章⁴⁸⁷章⁴⁸⁸章⁴⁸⁹章⁴⁹⁰章⁴⁹¹章⁴⁹²章⁴⁹³章⁴⁹⁴章⁴⁹⁵章⁴⁹⁶章⁴⁹⁷章⁴⁹⁸章⁴⁹⁹章⁵⁰⁰章⁵⁰¹章⁵⁰²章⁵⁰³章⁵⁰⁴章⁵⁰⁵章⁵⁰⁶章⁵⁰⁷章⁵⁰⁸章⁵⁰⁹章⁵¹⁰章⁵¹¹章⁵¹²章⁵¹³章⁵¹⁴章⁵¹⁵章⁵¹⁶章⁵¹⁷章⁵¹⁸章⁵¹⁹章⁵²⁰章⁵²¹章⁵²²章⁵²³章⁵²⁴章⁵²⁵章⁵²⁶章⁵²⁷章⁵²⁸章⁵²⁹章⁵³⁰章⁵³¹章⁵³²章⁵³³章⁵³⁴章⁵³⁵章⁵³⁶章⁵³⁷章⁵³⁸章⁵³⁹章⁵⁴⁰章⁵⁴¹章⁵⁴²章⁵⁴³章⁵⁴⁴章⁵⁴⁵章⁵⁴⁶章⁵⁴⁷章⁵⁴⁸章⁵⁴⁹章⁵⁵⁰章⁵⁵¹章⁵⁵²章⁵⁵³章⁵⁵⁴章⁵⁵⁵章⁵⁵⁶章⁵⁵⁷章⁵⁵⁸章⁵⁵⁹章⁵⁶⁰章⁵⁶¹章⁵⁶²章⁵⁶³章⁵⁶⁴章⁵⁶⁵章⁵⁶⁶章⁵⁶⁷章⁵⁶⁸章⁵⁶⁹章⁵⁷⁰章⁵⁷¹章⁵⁷²章⁵⁷³章⁵⁷⁴章⁵⁷⁵章⁵⁷⁶章⁵⁷⁷章⁵⁷⁸章⁵⁷⁹章⁵⁸⁰章⁵⁸¹章⁵⁸²章⁵⁸³章⁵⁸⁴章⁵⁸⁵章⁵⁸⁶章⁵⁸⁷章⁵⁸⁸章⁵⁸⁹章⁵⁹⁰章⁵⁹¹章⁵⁹²章⁵⁹³章⁵⁹⁴章⁵⁹⁵章⁵⁹⁶章⁵⁹⁷章⁵⁹⁸章⁵⁹⁹章⁶⁰⁰章⁶⁰¹章⁶⁰²章⁶⁰³章⁶⁰⁴章⁶⁰⁵章⁶⁰⁶章⁶⁰⁷章⁶⁰⁸章⁶⁰⁹章⁶¹⁰章⁶¹¹章⁶¹²章⁶¹³章⁶¹⁴章⁶¹⁵章⁶¹⁶章⁶¹⁷章⁶¹⁸章⁶¹⁹章⁶²⁰章⁶²¹章⁶²²章⁶²³章⁶²⁴章⁶²⁵章⁶²⁶章⁶²⁷章⁶²⁸章⁶²⁹章⁶³⁰章⁶³¹章⁶³²章⁶³³章⁶³⁴章⁶³⁵章⁶³⁶章⁶³⁷章⁶³⁸章⁶³⁹章⁶⁴⁰章⁶⁴¹章⁶⁴²章⁶⁴³章⁶⁴⁴章⁶⁴⁵章⁶⁴⁶章⁶⁴⁷章⁶⁴⁸章⁶⁴⁹章⁶⁵⁰章⁶⁵¹章⁶⁵²章⁶⁵³章⁶⁵⁴章⁶⁵⁵章⁶⁵⁶章⁶⁵⁷章⁶⁵⁸章⁶⁵⁹章⁶⁶⁰章⁶⁶¹章⁶⁶²章⁶⁶³章⁶⁶⁴章⁶⁶⁵章⁶⁶⁶章⁶⁶⁷章⁶⁶⁸章⁶⁶⁹章⁶⁷⁰章⁶⁷¹章⁶⁷²章⁶⁷³章⁶⁷⁴章⁶⁷⁵章⁶⁷⁶章⁶⁷⁷章⁶⁷⁸章⁶⁷⁹章⁶⁸⁰章⁶⁸¹章⁶⁸²章⁶⁸³章⁶⁸⁴章⁶⁸⁵章⁶⁸⁶章⁶⁸⁷章⁶⁸⁸章⁶⁸⁹章⁶⁹⁰章⁶⁹¹章⁶⁹²章⁶⁹³章⁶⁹⁴章⁶⁹⁵章⁶⁹⁶章⁶⁹⁷章⁶⁹⁸章⁶⁹⁹章⁷⁰⁰章⁷⁰¹章⁷⁰²章⁷⁰³章⁷⁰⁴章⁷⁰⁵章⁷⁰⁶章⁷⁰⁷章⁷⁰⁸章⁷⁰⁹章⁷¹⁰章⁷¹¹章⁷¹²章⁷¹³章⁷¹⁴章⁷¹⁵章⁷¹⁶章⁷¹⁷章⁷¹⁸章⁷¹⁹章⁷²⁰章⁷²¹章⁷²²章⁷²³章⁷²⁴章⁷²⁵章⁷²⁶章⁷²⁷章⁷²⁸章⁷²⁹章⁷³⁰章⁷³¹章⁷³²章⁷³³章⁷³⁴章⁷³⁵章⁷³⁶章⁷³⁷章⁷³⁸章⁷³⁹章⁷⁴⁰章⁷⁴¹章⁷⁴²章⁷⁴³章⁷⁴⁴章⁷⁴⁵章⁷⁴⁶章⁷⁴⁷章⁷⁴⁸章⁷⁴⁹章⁷⁵⁰章⁷⁵¹章⁷⁵²章⁷⁵³章⁷⁵⁴章⁷⁵⁵章⁷⁵⁶章⁷⁵⁷章⁷⁵⁸章⁷⁵⁹章⁷⁶⁰章⁷⁶¹章⁷⁶²章⁷⁶³章⁷⁶⁴章⁷⁶⁵章⁷⁶⁶章⁷⁶⁷章⁷⁶⁸章⁷⁶⁹章⁷⁷⁰章⁷⁷¹章⁷⁷²章⁷⁷³章⁷⁷⁴章⁷⁷⁵章⁷⁷⁶章⁷⁷⁷章⁷⁷⁸章⁷⁷⁹章⁷⁸⁰章⁷⁸¹章⁷⁸²章⁷⁸³章⁷⁸⁴章⁷⁸⁵章⁷⁸⁶章⁷⁸⁷章⁷⁸⁸章⁷⁸⁹章⁷⁹⁰章⁷⁹¹章⁷⁹²章⁷⁹³章⁷⁹⁴章⁷⁹⁵章⁷⁹⁶章⁷⁹⁷章⁷⁹⁸章⁷⁹⁹章⁸⁰⁰章⁸⁰¹章⁸⁰²章⁸⁰³章⁸⁰⁴章⁸⁰⁵章⁸⁰⁶章⁸⁰⁷章⁸⁰⁸章⁸⁰⁹章⁸¹⁰章⁸¹¹章⁸¹²章⁸¹³章⁸¹⁴章⁸¹⁵章⁸¹⁶章⁸¹⁷章⁸¹⁸章⁸¹⁹章⁸²⁰章⁸²¹章⁸²²章⁸²³章⁸²⁴章⁸²⁵章⁸²⁶章⁸²⁷章⁸²⁸章⁸²⁹章⁸³⁰章⁸³¹章⁸³²章⁸³³章⁸³⁴章⁸³⁵章⁸³⁶章⁸³⁷章⁸³⁸章⁸³⁹章⁸⁴⁰章⁸⁴¹章⁸⁴²章⁸⁴³章⁸⁴⁴章⁸⁴⁵章⁸⁴⁶章⁸⁴⁷章⁸⁴⁸章⁸⁴⁹章⁸⁵⁰章⁸⁵¹章⁸⁵²章⁸⁵³章⁸⁵⁴章⁸⁵⁵章⁸⁵⁶章⁸⁵⁷章⁸⁵⁸章⁸⁵⁹章⁸⁶⁰章⁸⁶¹章⁸⁶²章⁸⁶³章⁸⁶⁴章⁸⁶⁵章⁸⁶⁶章⁸⁶⁷章⁸⁶⁸章⁸⁶⁹章⁸⁷⁰章⁸⁷¹章⁸⁷²章⁸⁷³章⁸⁷⁴章⁸⁷⁵章⁸⁷⁶章⁸⁷⁷章⁸⁷⁸章⁸⁷⁹章⁸⁸⁰章⁸⁸¹章⁸⁸²章⁸⁸³章⁸⁸⁴章⁸⁸⁵章⁸⁸⁶章⁸⁸⁷章⁸⁸⁸章⁸⁸⁹章⁸⁹⁰章⁸⁹¹章⁸⁹²章⁸⁹³章⁸⁹⁴章⁸⁹⁵章⁸⁹⁶章⁸⁹⁷章⁸⁹⁸章⁸⁹⁹章⁹⁰⁰章⁹⁰¹章⁹⁰²章⁹⁰³章⁹⁰⁴章⁹⁰⁵章⁹⁰⁶章⁹⁰⁷章⁹⁰⁸章⁹⁰⁹章⁹¹⁰章⁹¹¹章⁹¹²章⁹¹³章⁹¹⁴章⁹¹⁵章⁹¹⁶章⁹¹⁷章⁹¹⁸章⁹¹⁹章⁹²⁰章⁹²¹章⁹²²章⁹²³章⁹²⁴章⁹²⁵章⁹²⁶章⁹²⁷章⁹²⁸章⁹²⁹章⁹³⁰章⁹³¹章⁹³²章⁹³³章⁹³⁴章⁹³⁵章⁹³⁶章⁹³⁷章⁹³⁸章⁹³⁹章⁹⁴⁰章⁹⁴¹章⁹⁴²章⁹⁴³章⁹⁴⁴章⁹⁴⁵章⁹⁴⁶章⁹⁴⁷章⁹⁴⁸章⁹⁴⁹章⁹⁵⁰章⁹⁵¹章⁹⁵²章⁹⁵³章⁹⁵⁴章⁹⁵⁵章⁹⁵⁶章⁹⁵⁷章⁹⁵⁸章⁹⁵⁹章⁹⁶⁰章⁹⁶¹章⁹⁶²章⁹⁶³章⁹⁶

15 兄弟たち。人間のばあいにたとえてみましよう。
人間の契約でも、いったん結ばれたら、だれもそれを
無効にしたり、それにつけ加えたりはしません。

16 ところで、約束は、「アブラハムとそのひとりの子孫
に告げられました。神は「子孫たちに」と言って、多
数をさすことはせず、ひとりをさして、「あなたの子
孫に」と言っておられます。その方はキリストです。

17 私の言おうとするることはこうです。先に神によつて
結ばれた契約は、その後四百三十年たつてできた法律
によつて取り消されたり、その約束が無効とされたり
することがないということです。

18 なぜなら、相続がもし律法によるのなら、もはや約
束によるのではないからです。ところが、神は約束を
通してアブラハムに相続の恵みを下さったのです。

19 では、律法とは何でしようか。それは約束をお受け
になった、この子孫が来られるときまで、違反を示す
ためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲
介者の手で定められたのです。

20 仲介者は一方だけに属するものではありません。し
かし約束を賜わる神は唯一者です。

21 とすると、律法は神の約束に反するのでしょうか。
絶対にそんなことはありません。もしも、与えられた
律法がいのちを与えることのできるものであつたら
ら、義は確かに律法によるものだったでしよう。

22 しかし聖書は、逆に、すべての人を罪の下に閉じ込
めました。それは約束が、イエス・キリストに対する
信仰によつて、信じる人々に与えられるためです。

23 信仰が現われる以前には、私たちは律法の監督の
下に置かれ、閉じ込められていましたが、それは、や
がて示される信仰が得られるためでした。

24 こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私
たちの養育係となりました。私たちが信仰によつて義
と認められるためなのです。

25 しかし、信仰が現われた以上、私たちはもはや養育
係の下にはいません。

26 あなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。
によって、神の子どもです。

27 パテスマを受けてキリストにつく者とされたあな
たがたはみな、キリストをその身に着たのです。

28 ユダヤ人もギリシャ人もなく奴隸も自由人もなく、
男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみ
な、キリスト・イエスにあって、一つだからです。

29 もしかしながらがたがキリストのものであれば、それに
よつてアブラハムの子孫であり、約束による相続人な
のです。

4

1 ところが、相続人というものは、
全財産の持ち主なのに、子どものう
ちは、奴隸と少しも違はず、
2 父の定めた日までは、後見人や管理者の下にありま
す。

3 私たちもそれと同じで、まだ小さかった時には、こ
の世の幼稚な教えの下に奴隸となつていました。

4 しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣
わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下に
ある者となさいました。

5 これは律法の下にある者を贖い出するために、その結
果、私たちが子としての身分を授けるようになるため
です。

6 そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、
父」と呼ぶ、御子の御靈を、私たちの心に遺わしてくれ
だしました。

7 ですから、あなたがたはもはや奴隸ではなく、子で
す。子ならば、神による相続人です。

8 しかし、神を知らなかつた当時、あなたがたは本
来は神でない神々の奴隸でした。

9 ところが、今では神を知つてゐるのに、いや、むし
ろ神に知られてゐるのに、どうしてあの無力、無価値
の幼稚な教えに逆戻りして、再び新たにその奴隸にな
らうとするのですか。

10 あなたがたは、各種の日と月と季節と年とを守つて
います。

11 あなたがたのために私の勞したことは、むだだった
のではないか、と私はあなたがたのことを察していま
す。

唐文.

福音一愛.

[福音子]

慕う. くつへ.

3.

モロノヤ.

奴隸.

5

12 お願いです。兄弟たち。私のようになつてください。
 13 私もあなたがたのようになつたのですから。あなたがたは私に何一つ悪いことをしていません。

14 ご承知のとおり、私が最初あなたがたに福音を伝えたのは、私の肉体が弱かつたためでした。

15 そして私の肉体には、あなたがたにとつて試練となるものがあつたのに、あなたがたは軽蔑したり、きらつたりしないで、かえつて神の御使いのようにまたキリスト・イエスご自身であるかのよう、私を迎えてくれました。

16 それなのに、あなたがたのあの喜びは、今どこにあるのですか。私はあなたがたのためにあかししますが、あなたがたは、もしできれば自分の目をえぐり出して私に与えたいとさえ思つたではありませんか。

17 それでは、私は、あなたがたに真理を語つたために、あなたがたの敵になつたのでしょうか。

18 良いことで熱心に慕われるのは、いつであっても良いものです。それは私があなたがたといっしょにいるときだけではありません。

19 私の子どもたちよ。あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。

20 それで、今あなたがたといっしょにいることができたら、そしてこんな語でなく語せたらと思います。あなたがたのことをどうしたらよいかと困っているのです。

21 律法の下にいたいと思う人たちは、私に答えてください。あなたがたは律法の言うことを聞かないのです。

22 そこには、アブラハムにふたりの子があつて、ひとりは女奴隸から、ひとりは自由の女から生まれた、と書かれています。

23 女奴隸の子は肉によって生まれ、自由の女の子は約束によって生まれたのです。

24 このことには比喩があります。この女たちは二つの契約です。一つはシナイ山から出ており、奴隸となる子を産みます。その女はハガルです。

25 このハガルは、アラビヤにあるシナイ山のことで、

26 今エルサレムに当たります。なぜなら、彼女はその子どもたちとともに奴隸だからです。

27 しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です。

28 兄弟たちよ。あなたがたはイサクのように約束の子弟もです。

29 しかし、かつて肉によつて生まれた者が、御靈によつて生まれた者を迫害したように、今もそのとおりです。

30 しかし、聖書は何と言っていますか。「奴隸の女と

31 その子どもを追い出せ。奴隸の女の子どもは決して自由の女の子どもとともに相続人になつてはならない。」

32 こういうわけで、兄弟たちよ。私たちは奴隸の女の子どもではなく、自由の女の子どもです。

33 キリストは、自由を得させるため

に、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかりと立つて、またと奴隸のくびきを負わせられないようにしなさい。

福音の子.

元気は.

自由の子.

迫害. 立ち. くつこう.
律法. 自由. くつこう.

洗礼

見よ

よく聞いてください。このパウロがあなたがたに言います。もし、あなたがたが割礼を受けるなら、キリストは、あなたがたにとって、何の益もないのです。

割礼

を受けます。すべての人に、私は再びあかします。

その人は律法の全体を行なう義務があります。

律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。

私たち、信仰により、御靈によつて、義をいただ

く望みを熱心に抱いていります。

キリスト・イエスにあつては、割礼を受ける受けな

いは大事なことではなく、愛によつて働く信仰だけが大事なのです。

あなたがたはよく走っていたのに、だれがあなたがたを妨げ、真理に従わなくさせたのですか。

そのような勧めは、あなたがたを召してくださいましたから出たものではありません。

わずかのパン種が、こねた粉の全體を発酵させるの

です。

私は主にあつて、あなたがたが少しも違つた考え方を持っています。

しかし、あなたがたを妨害する者は、だれであろうと、さばきを受けるの

です。

兄弟たち。もし私が今でも割礼を宣べ伝えているなら、どうして今なお迫害を受けることがあります。

それなら、十字架のつまづきは取り除かれているはずです。

あなたがたをかき乱す者どもは、いつそのこと不具になつてしまふがよいのです。

兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるため召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもつて互いに仕えなさい。

律法の全體は、「あなたの隣人をあなたの自身のように愛せよ。」という一語をもつて全うされるのです。

もし互いにかみ合つたり、食い合つたりしているなら、お互いの間で減ぼされてしまします。気をつけなさい。

私は言います。御靈によつて歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。

なぜなら、肉の願うことは御靈に逆らい、御靈は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは自分のしたいと思うことをすることができないのです。

しかし、御靈によつて導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。

肉の行ないは明白であつて、次のようなものです。不品行、汚れ、好色。

偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派。

ねたみ、酷畜、遊興、そういういた類のものです。前にもあらかじめ言つたように、私は今もあなたがたにあらかじめ言つておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。

しかし、御靈の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。

もし私たちが御靈によつて生きるのなら、御靈に導かれて、進もうではありませんか。

互いにいどみ合つたり、そねみ合つたりして、虚榮に走ることのないようにしましょう。

肉の御靈

3: アブラハムの約束の祝福は、御靈を受ける子と云ひ。

G2570. 爰の家

6

1 兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥つたなら、御靈の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないよう気をつけなさい。

2 互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。

3 だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思つたら、自分を欺いています。

4 おのおの自分の行ないをよく調べてみなさい。そうすれば、誇れると思ったことも、ただ自分だけの誇りで、ほかの人に対して誇ることではないでしょう。

5 人にはおのおの、負うべき自分自身の重荷があるのです。

6 みことばを教えられる人は、教える人とすべての良きものを分け合いなさい。

7 思い違いをしてはいけません。神は悔られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。

8 自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御靈のために蒔く者は、御靈から永遠のいのちを刈り取るのです。

9 善を行なうのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て、刈り取ることになります。

10 ですから、私たちは、機会のあるたびに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに善を行ないましょう。

重荷を負い合う。

創・十・泊

11 ご覧のとおり、私は今こんな大きな字で、自分のこの手であなたがたに書いています。

12 あなたがたに割札を強制する人たちは、肉において外見を良くしたい人たちです。彼らはただ、キリストの十字架のために迫害を受けたくないだけなのです。

13なぜなら、割札を受けた人たちは、自分自身が律法を守っていません。それなのに彼らがあなたがたに割札を受けさせようとすることは、あなたがたの肉を誇りたいためなのです。

14しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあつてはなりません。この十字架によつて、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。

15割札を受けているか受けていないかは、大事なことではありません。大事なのは新しい創造です。

16どうか、この基準に従つて進む人々、すなわち神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように。

17これからは、だれも私を煩わさないようにしてください。私は、この身に、イエスの焼き印を帶びているのですから。

18どうか、私たちの主イエス・キリストの恵みが、兄弟たちよ、あなたがたの靈とともにありますように。アーメン。

誇る。

御靈へ家 十字架と誇る。

割札を誇る。